

布図ができました

環境省では、平成 15 年度から、衛星による画像データを使用した阿蘇全域にわたる草原利用分布図の作成を進めてきました。このたびその調査研究結果がまとまりましたので紹介します。

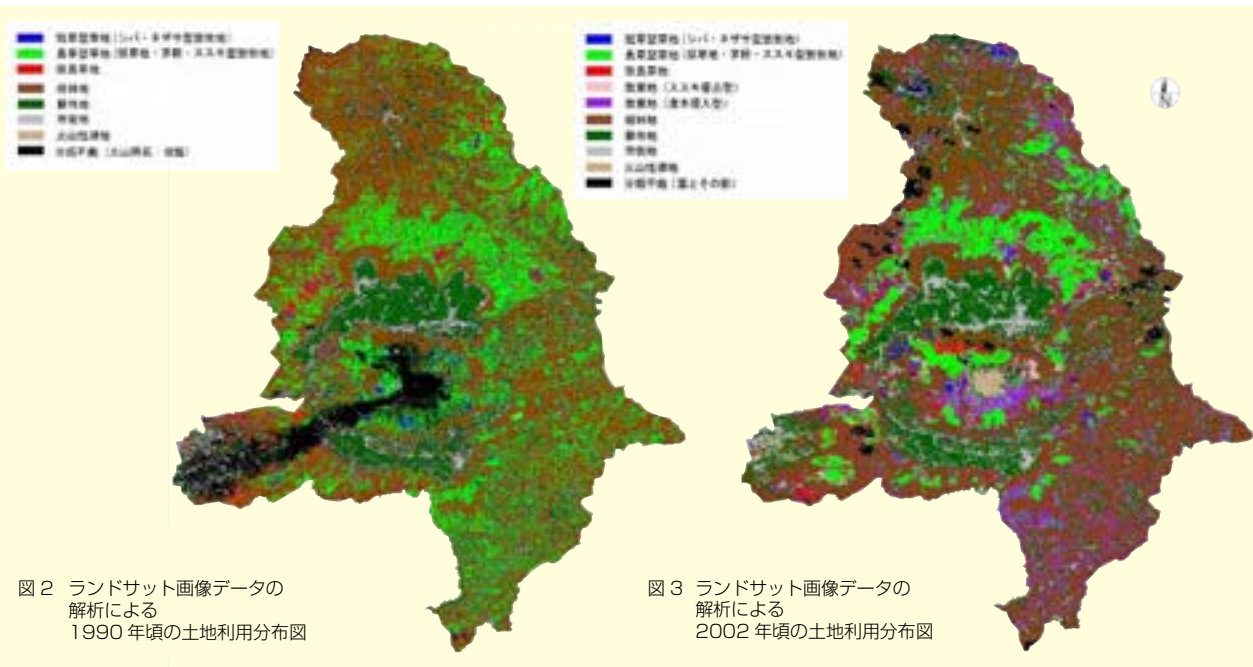


図 2 ランドサット画像データの解析による 1990 年頃の土地利用分布図

図 3 ランドサット画像データの解析による 2002 年頃の土地利用分布図

Pick Up

「阿蘇草原再生に向けた意見交換会」開催

9月5日、牧野組合や関係機関・団体等による意見交換会が開催されました。

これまで環境省が行ってきた調査・事業について説明を行い、それに対し、採草の支援や野草利用の促進について期待する声がありました。また、現在準備中の「阿蘇草原再生協議会」に関して趣旨や委員の公募について説明を行い、意見交換を行いました。

環境省から協議会への参加呼びかけに対し、牧野組合からは、「阿蘇の未来像をつくるきっかけとして、我々も協議会に参加しながら再生について考えていくべきだ。」といった意見が出ました。



意見交換会

インタビュー 草原再生への期待



鈴木康夫氏

九州東海大学工学部教授。昭和 29 年山形県生まれ。19 年前熊本に来て、現在は高森町民。専門は農村地理・地域資源学。衛星画像で土地利用図を作成し、GIS(地理情報システム)化する研究を進めている。

衛星データをコンピュータで画像処理して土地利用図を作成し、地図を重ね合わせる技法を用いて、草原の分布と利用状況を判読しています。その過程で、草原植生の専門家である瀬井純雄先生といっしょに現地を回ったことが、分布図の精度向上につながりました。画像処理は学科同僚のチョン・ムハタル先生。自然環境研究センターの宮川浩さんらも含めた共同作業の成果です。

阿蘇の草原全体を守ろうというのは無理があり、今回のような草原分布図を活用し、場所に即して計画的に草原を残していくしかないと思います。

阿蘇の草原はご先祖様から受け継いできた大切な地域資源であり、共同作業の賜物です。環境学習の場としても、私たちに様々なことを教えてください。私たちの研究も、今後は具体的な政策提言をし、地域に貢献していきべきだと考えています。